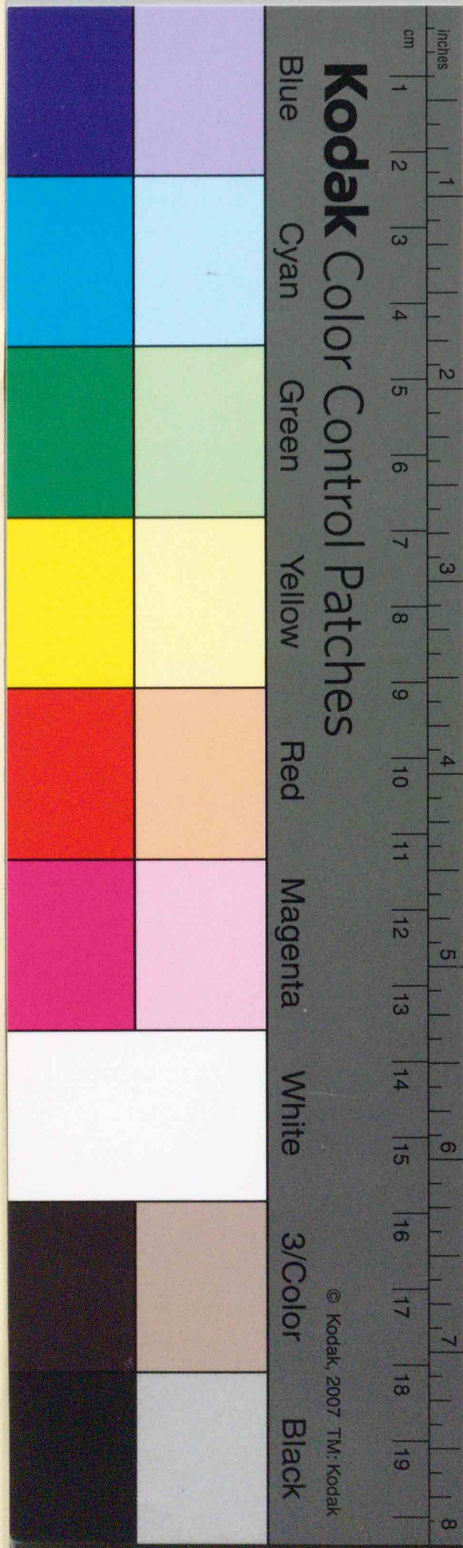


41040

教科書文庫

4
760
44-1942
01304 49433



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



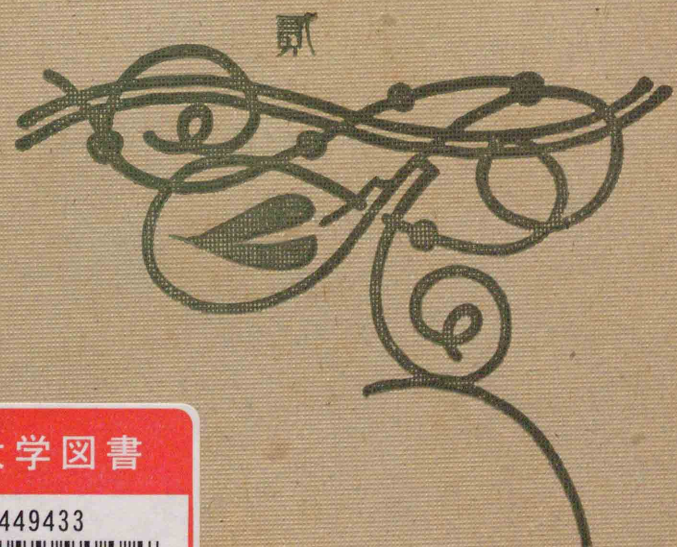
© Kodak, 2007 TM: Kodak



教科書文庫
4
760
44-1942
0130449433

昭和十七年四月三十日
實業學校音樂科
文部省檢定済

水松耕輔 著
實業音樂教本
男子用



広島大学図書
0130449433



中央図書館

教科書文庫

4

760

44-1942

0130449433



小松耕輔著

實業音楽教本

男子用

貳



広島大学図書

0130449433



広島大学図書

0130449433



緒 言

- 一、本書は實業學校音樂科の新教授要目に準據して編纂したものである。
- 二、本書に集録した樂曲は、著者署名以外のものは皆各國の作曲者によつて作られたものである。
- 三、歌詞に署名なきものは著者自身の作にかゝるものである。
- 四、歌曲は二十一篇を收めてゐるが、教授の都合上、幾分これを加除し、他の曲を採録する場合を慮り、卷末に五線紙を添へて其の用に供した。
- 五、樂典は其の初歩を授け、音程練習は階梯的に編纂して卷末に添へた。

昭和十七年二月

著 者

(2)

目 次

ヨットに乗りて	4
春の夕	6
春の散歩	8
吹け春風	10
つばめ	12
牧場にて	14
友の別れ	16
逝きし春	18
若葉と薔薇	20
楽しき日曜日	22
秋の森	24
わが國旗	26
樂しや我が世	28
級友の集ひ	30
狩人の歌	32
騎馬少年	34
友 情	36
露營の夢	38
あせし薔薇	40
旅 愁	42
春 興	44

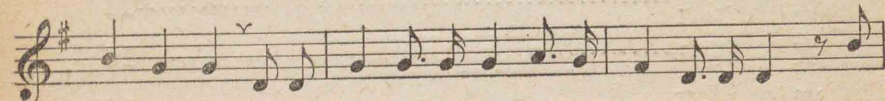
(3)

ヨットに乗りて

楽しく



1. ハ ル ノ ウ ミ ラ ヨ ッ ト ユ ク ワ レ ラ ノ セ テ
2. あ を く な ぎ し う み の う へ し ろ き な み を



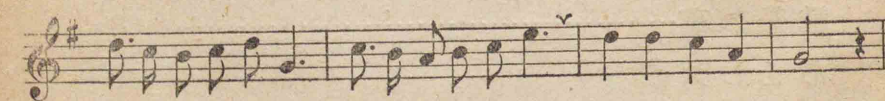
ユ ク ヨ ア カ キ ホ ア グ ア ラ キ ナ ミ マ カ
た て て あ か き ほ に は か ぜ を は ら み お



ゼ ニ ゴ ノ リ テ ト ブ オ ト へ サ キ ニ
き を ば さ し て と ぶ ご と へ さ き に



チ ル ハ ナ ミ ヨ ホ ズ ナ ニ ナ ル ハ カ ゼ ヨ
ら る は な み よ ほ づ な に な る は か ぜ よ



ヨ ッ ト ハ ユ ク ハ ル ノ ヒ ウ ケ オ キ サ シ テ
ヨ ッ ト は ゆ く は て な き う み ひ と す ぢ に

ヨットに乗りて

麻上俊延

春の海をヨットゆく、われらのせてゆくよ。
あかき帆あげ、青き波間、かぜにぞのりてとぶごと。

舳に散るは波よ、帆綱に鳴るは風よ、
ヨットは行く、春の陽うけ沖さして。

二

青く風ぎし海の上、白きなみをたてて。
紅き帆には風をはらみ、沖をばさしてとぶごと。

舳に散るは波よ、帆綱に鳴るは風よ、
ヨットは行く、涯なき海ひとすぢに。

春の夕

優美に



1 アカーキューフヒニソラハモエテア
2 はなにねむれるしるきてふのつ



ハキカースミニノベハシーヅムハ
ばさゆるがずけふもくれぬほ



カゲターノシクウタフトーリノコ
しはまたたくゆめのごとくは



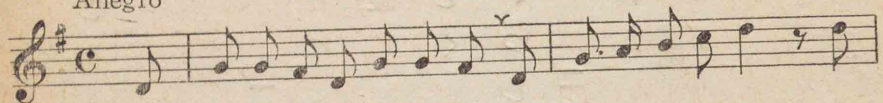
エモイツシーカウスレユーキヌ
るのゆふべぞあはれふかき

星は瞬く	翼揺がず	花に眠れる	葉蔭もい	赤き夕日に	春の夕
春の夕ぞ			もいつしか	淡き霞に	の
	夢のごとく、	白き蝶の	歌ふ鳥の	野邊は沈む。	夕
あはれ深き。	今日も暮れぬ。		薄れ行きぬ。	空は燃えて、	

麻上俊延

春の散歩

Allegro



1. ハ ル ノ ノ ハ ヒ ロ ク カ ゲ ロ フ モ エ ヨ
 2. く さ ぶ え も か な し は る の ひ く れ し



ロ コ ビ ニ ア フ レ ア シ ド リ モ カ ロ ク ミ
 づ む ひ を お ひ て な が き か げ お と し み



ド リ ノ ク サ フ ミ ユ ク ヨ ヒ バ リ ハ ナ キ ハ
 ど り の く さ ふ み か へ る い つ し か つ き ゆ



ナ ハ サ キ ミ ダ レ ス ギ ユ ク カ ゼ イ ト キ ヨ ン
 よ ぞ ら に に ほ ひ く さ の か こ く た ち ま よ ふ

春の散歩

一 春の野は廣く
 喜よろこび悦こびにあふれ
 陽ひら炎び燃え、
 足あしどりも輕かろく、

雲ひばり雀りは啼なぎ、
 踏ふみ行くよ。
 花はなは咲さきみだれ、
 いと清きよし。

二 草くさ笛ふエも悲かなし
 沈しずむ陽ひを負おひて
 踏ふみ歸かへる。
 長ながき影かげ落おし、

草くさの香か濃どく
 沈しずむ陽ひを負おひて
 踏ふみ歸かへる。
 長ながき影かげ落おし、

麻上俊延

吹 け 春 風

(輪 唱)

. Allegro



1 ハ ナ ノ カ サ ツ ヒ フ ケ ハ ル カ ゼ -

2 さ び し き ム ヅ は あ と だ に な く -



ト リ ノ ネ ハ コ ビ フ ケ ハ ル カ ゼ -

か が や く ひ か り ひ ろ の に み つ -



ミ ド リ ノ ノ ベ ニ フ ケ ハ ル カ ゼ -

た の し き の べ に ふ け は る か ぜ -

淋しき冬は	鳥の音はこび	花の香さそひ	吹
かがやく光	緑の野邊に	吹け春風、	け
楽しき野邊に	吹け春風。	吹け春風、	春
			風

つばめ

優美に

p

1. ハル パール トホ キ ミナ ミ ノ ク ニ
2. みど り も ふ か き や な ぎ の え だ

ヲ コ ゾ ノ ス シ タ ヒ ト ビ キ シ ッ バ
を は る さ め け む る み の も を か す

メ チ ヒ サ キ ト リ ヨ ヤ サ シ キ ト リ
め と び か ふ つ ば め み な み の と り

ヨ ケ ム レ ル ア メ ニ ハ ネ フ バ ヌ ラ
よ ち ゃ ど り こ と り う ち つ れ た の

シ テ ヤ ノ ゴ ト ト ブ ヨ ム ネ
し く つ ば め は と ぶ よ し こ

mf

ヨ ー リ ム ネ ヘ ー ト ヨ ロ コ ビ ト ブ ヨ
ん ー の は ね を ー ば う ち ふ り と ぶ よ

二

はるばるとほき
去年の巢したひ
小さきとりよ
煙れるあめに
矢のごととぶよ
よろこびとぶよ
緑もふかき
春雨けむる
とびかふつばめ
親鳥子鳥
つばめはとぶよ
うちふりとぶよ。

つばめ

南のくにを、
とび來しつばめ。
やさしきとりよ、
羽をばぬらして、
棟より棟へと、

麻上俊延

柳の枝を、
水面をかすめ、
南の鳥よ。
うちつれ楽しく、
紫紺のはねをば

牧 場 に て

Moderato

1. ハ ル ノ ヒ ウ ラ ラ ニ テ リ テ カ ゼ ハ ユ ル ク フ
 2. い つ し か は る の ひ し づ み み そ ら あ か く は

キ ヤ サ シ ク ニ ホ ヘ ル ハ ナ ニ マ シ
 エ ユ フ も や ほ の か に こ め て も り

ロ キ テ フ マ ヘ リ タ ノ シ ヤ マ キ
 か げ た そ が れ ぬ く さ は む ひ つ

バ ノ マ ヒ ル ク サ ノ ウ ヘ ニ ザ シ ヒ
 じ の む れ も あ は き か げ を な げ ね

ツ ジ フ モ リ ツ ツ ヒ ト リ フ エ フ バ フ キ ナ ラ ス
 ぐ ら に い そ ぐ こ と り の は あ と も き え う せ ぬ

ウ レ ヒ フ ス レ コ コ ロ カ ロ ク フ エ
 ふ え を ふ き て た ど る い へ ぢ な ど

フ ケ バ ミ ド リ ニ カ ス ム マ キ バ ノ ヒ ル ハ ナ ガ シ
 や か に は る の ひ く れ て ま き ば は よ る と な り ぬ

一 春の陽麗に照りて 風は緩く吹き、
 優しく匂へる花に ま白き蝶舞へり。
 樂しや牧場の眞晝 草の上に坐し、
 羊を守りつゝ、獨り 笛をば吹きならず。
 憂ひ忘れ心かろく、 笛ふけば、
 縁に霞む牧場の晝は長し。

二 いつしか春の陽沈み 空赤く映え、
 夕もやほのかにこめて 森蔭たそがれぬ。
 草はむ羊のむれも あはき影をなげ、
 ねぐらに急ぐ小鳥の 羽音も消えうせぬ。
 笛を吹きてたどる家路 牧場は夜となりぬ。
 春の日暮れて 牧場は夜となりぬ。

牧 場 に て
 麻 上 俊 延

友の別れ



1. ア カ ッ キ キ ヨ ク ソ ラ アー ラー ミ テ
2. か た み に う で を と り かー はー し て



カ ラ リ モ タ カ ク ハ ナ ヒー ラー ケ ド
な ご り は つ き ぬ こ の わー かー れ や



マ ゴ コ ロ コ メ テ ア ヒ ム ツ ミー シ
ま さ さ く あ れ よ あ あ わ が とー も



イ ト シ キ トー モー ハー アー サ リ ユ ク
よ た た び あー はー んー そ のー と き ま で

友の別れ

一

麻上俊延

曉清く 空青みて、
香りも高く 花開けど、
まごころこめて あひ睦みし、
いとしき友は ああ去りゆく。

二

かたみに腕を 取りかはして、
名残は盡きぬ この別れや、
まささくあれよ ああわが友、
ふたたび會はん そのときまで。

逝きし春

あはれに

1. ソ ヨグカゼ ニ ハナハ チ リシ キ
2. ち れるはな の かをり た だよ ひ

ノ コルエダ ニワカバ ミドリニホ フ
あ せしには にあめは しろくそそ ぐ

ス ガタミエズ ウタフ コ トリ ヨテ
と りのうた も ひくく し づみ て

ナ レモシル ヤトハニ エキシハル フ
ゆ きしはる をなれも をしみなく か

ウレヒ ハ イ ツシカ ムネニミ ツ
わ がむね そぞろに うれひみ つ

ア ハレハル ハトハニ ウツリエキ ス
あ はれとは に う つり ゆきしはる よ

二

あはれとはに
あはれとはに
あはれとはに
あはれとはに
あはれとはに
あはれとはに

ゆきしはるを
ゆきしはるを
ゆきしはるを
ゆきしはるを
ゆきしはるを
ゆきしはるを

鳥のうたも
鳥のうたも
鳥のうたも
鳥のうたも
鳥のうたも
鳥のうたも

あせし庭に
あせし庭に
あせし庭に
あせし庭に
あせし庭に
あせし庭に

散れる花の
散れる花の
散れる花の
散れる花の
散れる花の
散れる花の

あはれ春は
あはれ春は
あはれ春は
あはれ春は
あはれ春は
あはれ春は

なれもしるや
なれもしるや
なれもしるや
なれもしるや
なれもしるや
なれもしるや

うれひは
うれひは
うれひは
うれひは
うれひは
うれひは

うたふ小鳥よ、
うたふ小鳥よ、
うたふ小鳥よ、
うたふ小鳥よ、
うたふ小鳥よ、
うたふ小鳥よ、

若葉みどりにほふ。
若葉みどりにほふ。
若葉みどりにほふ。
若葉みどりにほふ。
若葉みどりにほふ。
若葉みどりにほふ。

花はちりしき、
花はちりしき、
花はちりしき、
花はちりしき、
花はちりしき、
花はちりしき、

いとほしにゆきし春を。
いとほしにゆきし春を。
いとほしにゆきし春を。
いとほしにゆきし春を。
いとほしにゆきし春を。
いとほしにゆきし春を。

とはにうつりゆきぬ。
とはにうつりゆきぬ。
とはにうつりゆきぬ。
とはにうつりゆきぬ。
とはにうつりゆきぬ。
とはにうつりゆきぬ。

かをりたゞよひ、
かをりたゞよひ、
かをりたゞよひ、
かをりたゞよひ、
かをりたゞよひ、
かをりたゞよひ。

雨はしろくそそぐ。
雨はしろくそそぐ。
雨はしろくそそぐ。
雨はしろくそそぐ。
雨はしろくそそぐ。
雨はしろくそそぐ。

ひくくしづみて、
ひくくしづみて、
ひくくしづみて、
ひくくしづみて、
ひくくしづみて、
ひくくしづみて。

なれも惜しみ泣くか。
なれも惜しみ泣くか。
なれも惜しみ泣くか。
なれも惜しみ泣くか。
なれも惜しみ泣くか。
なれも惜しみ泣くか。

そぞろにうれひみつ、
そぞろにうれひみつ、
そぞろにうれひみつ、
そぞろにうれひみつ、
そぞろにうれひみつ、
そぞろにうれひみつ。

うつりゆきし春よ。
うつりゆきし春よ。
うつりゆきし春よ。
うつりゆきし春よ。
うつりゆきし春よ。
うつりゆきし春よ。

逝きし春

麻上俊延

若葉と薔薇



1. カゼハソヨグ ヲヒルヲカバハヲドル
 2. とりはえだにうたひそ のにはばらさ



ヨヒカ リモサ ヤケクワ
 くあかしろこさまぜか



カバカロクヲドルカガヤクナ
 をりたかくにほふかがやくな



ツノヒヲカ - バヲ - ドル
 つのひばら - はに - ほふ

かがやく夏の日
 紅白こきまぜ
 鳥は枝に歌ひ
 園には薔薇さく。
 かがやく夏の日
 若葉躍る。
 光もさやけく
 若葉軽く躍る。
 風はそよぐ眞晝
 若葉は躍るよ。

若葉と薔薇

麻上俊延

樂しき日曜日

楽しく *mf*

1. { ターノーシーキーハートモミナウチツレナ
ハレーワタルオホゾラウクモモらかな
2. { うれしきはこぞりてほがらさ
まっあをくみぎはにし

テアソブニチエウビ
クスマミテニココチヨヤ
にあそぶにちえうび
みちりてうつくし

p

アヲクサシゲレルヒロノニキ
つめたきうなばらみなわをあ

mf

タリタタカラカニウタフ
げつつうとのごとよぐ

ミードーリーコーキーモリカゲトリノネ
よーろーこーびーのーさけびもまのづか

モタヘニモレキツツ
らのどをあふれさて

樂しき日曜日

麻上俊延

一
樂しきはともみなうちつれて あそぶ日曜日。
晴れわたるおほ空 雲もなくすみてこちよや。
青草しげれる廣野にきたりて たからかにうたふ。
緑こき森蔭 鳥の音もたへに洩れきつゝ。

二
嬉しきはこぞりてほがらかに あそぶ日曜日。
松青くみぎはに 白き波ちりてうつくしや。
冷たきうな原水沫をあげつつ 魚のごと泳ぐ。
喜悅のさげびも おのづからのどをあふれきて。

秋の森

感深く *P*

1. ミ ド リー ノ コー ノ ハ ハ ミー
 2. す ず しー き しー ら べに うー
 3. サ ビ シー ク クー レ ユク アー

ナ チ リ ハ テ タ ノ シー キ ナ
 た ひ し と り い ま はー や も
 キ ノ モ リ ヨ セ メ テー ハ カ

ツ ハ ア ト ダー ニ ナ シ
 り に こ ぶ だー に な し
 タ レ ス ギ シー ナ ツ ラ

秋の森

一 緑の木の葉は、みなちりはて、
 たのしき夏は、あとだになし。

二 涼しきしらべに、うたひし鳥、
 いまはや森に、聲だになし。

三 さびしくくれゆく、秋の森よ、
 せめてはかたれ、すぎし夏を。

わが國旗

勇壯に、遅くなく



1. ヨ ロ ヅ ノ ク ニ ニ タ グ ヒ モ ナ キ ト
 2. を を し く た け き こ こ ろ も ち て あ



ヨ サ カ ノ ホ ル ア サ ヒ ノ ハ タ ム ヤ
 さ ひ の み は た よ に か ざ さ む



カ フ ト コ ロ ニ テ キ ハ ア ラ ジ ー ツ
 さ し く さ よ さ こ こ ろ も ち て ー あ



ガ ク ニ マ モ ル ア サ ヒ ノ ハ イ
 さ ひ の み は た よ に か ざ さ む

わが國旗

よろづのくにに
 とよさかのぼる
 旭の旗、
 たぐひもなき、

むかふところに
 わが國まもる
 旭の旗。
 敵はあらし、

二

雄々しくたけき
 旭の御旗
 世界にかざさむ、
 心もちて、

やさしく清き
 旭の御旗
 世界にかざさむ、
 心もちて、

樂しや我が世

愉快に

mf



1. タノシヤ ワガヨ ウレシヤ ワガヨ
2. たのしや わがよ られしや わがよ



ハルニハ サクラ エキカト ミダレ
なつには うみに しらなみ くだけ



アキニハ チグサ ニシキト キソフ
ふゆには ゆきの はなこそ にほへ



アハレ ワーガヨ ハ タノシヤー タノシ
あはれ わーがよ は たのしやー たのし

樂しや我が世

樂しや我が世、 うれしや我が世、

春には櫻、 ゆきかともだれ、

秋には千草、 にしきときそふ。

あはれ我が世は、 樂しやたのし。

二

樂しや我が世、 うれしや我が世、

夏には海に、 しら波くだけ、

冬には雪の、 花こそにはほへ。

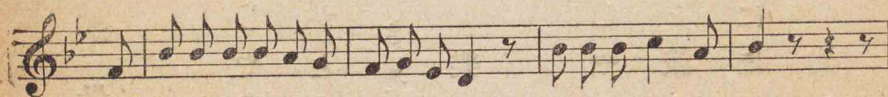
あはれ我が世は、 樂しやたのし。

級友の集ひ

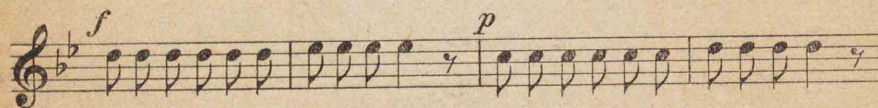
Allegro molto



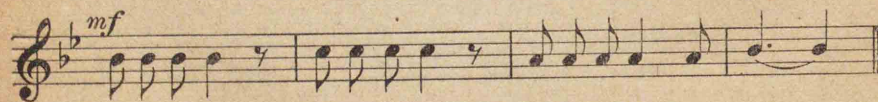
1. ヒ ハウララカニ オホゾラ スミテタカク
 2. か ぜこちよく うたごゑ ひろのわたり



ツ ドヒヨルトモ カタミニ ホホハア カシ
 む つみあふとも かたみに まなこきよら



イザヤトモニ ウチツレ タノシキウタ ウタハム
 いざやともにてをとり あしもかろくをどらむ



ウタハム ウタハム コエヲソ ロヘー
 をどらむ をどらむ あしもかろく

級友の集ひ

一

日はうららかに、 大空すみて高く、
 集ひよる友、 かたみに頬は赤し。
 いざや共にうちつれ、 樂しき歌うたはむ
 歌はむ 歌はむ、 聲をそろへ。

二

風こちよく、 歌聲廣野わたり、
 むつみあふ友、 かたみに眼きよら。
 いざや共に手をとり、 脚もかろくをどらむ、
 をどらむ、 をどらむ、 脚もかろく。

麻上俊延

狩人の歌

Allegro



1. アケユクソ ラニホシカゲウ スレテー
2. ゆふひはあちてをぐらきもりかげー



トリハウータフー トリハウータフー
もやはしーろしーもやはしーろしー



ツツサキマバユクアサヒニキラメキ
あかるくもえたつかがりびかこみて



フクカゼーキョクーココロイサム
たがひにかたるけふのてがら



{イ ガーユケワ ガートモエ モノオヒヲ
{ヒ ゴーロノテ ナーミヲキ ソノミアハン
{あ すーまたををーしくえ ものあはん
{あ ふーげばゆ ふーぞらあ をくすめり

狩人の歌

麻上俊延

明^あけゆく空に星影うすれて、 鳥は歌ふ鳥は歌ふ。

銃^つ先まばゆく朝日にきらめき、 ふく風清くこころ勇む。

いざゆけわが友獲物追ひて、 日頃の手並を競ひ合はん。

二

夕陽^{ゆふひ}は落ちて小暗^{こくら}き森蔭 靄^もは白し靄^もは白し。

あかるく燃えたつかがり火かこみて たがひにかたるけふの手柄。

明日^{あす}またををしく獲物追はん、 あふげば夕空あをくすめり。

騎馬少年

輕快に

mf



1. イ ナ ナ ク コ マ ニ ム テ ア タ ヒ
2. ひ づ め の お と も さ や か に ひ



ロ ノ フ カ ク ル ウ レ シ タ ハ シ
ろ の と か く る た の し さ か ぜ



レ コ マ ロ カ ゼ ノ ゴ ト ク ラ
を さ り て と ぶ が ご と く ラ



ラ ラ ラ ラ ラ ラー ラー ラー ラー
ラ ラ ラ ラ ラ ラー ラー ラー ラー



ラ ラ ラ ラ ラ ラー ラー ラー ラー
ラ ラ ラ ラ ラ ラー ラー ラー ラー

蹄の音もさやかに、

風を切りて

飛ぶがごとく。

廣野を驅くる樂しさ。

ラ
ラ
ラ

ラ
ラ
ラ

ラ
ラ
ラ
ラ
ラ

二

ラ
ラ
ラ

ラ
ラ
ラ

ラ
ラ
ラ
ラ
ラ

嘶く駒に鞭あて、
走れ駒よ
廣野を驅くる嬉しさ。
風のごとく。

騎馬少年

麻上俊延

友 情

Moderato



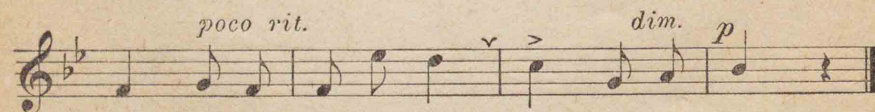
1. トモトモニ アレバ ココロ イツモ
2. はなのあした つきのゆふべ



キヨキアイニ アカルシ
ひとつのこゝろ あはせて



トモトモニ ムツミカハス
ともになびともにあそぶ



アサナユフナ タノシヤ
とものおとろしや

友 情
友とあれば 心いつも
清き愛に あかるし。
友と共に むつみかはす
朝な夕な 樂しや。
花のあした 月のゆふべ
一つ心 あはせて
共にまなび 共にあそぶ
友のまこと 嬉しや。

麻上俊延

露 營 の 夢

元氣よく

mf



1. ユ フ ゾ ラ ハ レ タ ホ シ ハ ハ ル ケ ク ム シ
2. に は か に お こ る か ん く わ の ひ び き す は



ノ コ エ ニ ツ ユ シ ト ト ツ カ レ レ ミ ラ バ ク タ
や て き と と び た て ば て き に は あ ら で す さ



ノ マ ク ラ ニ コ ヨ ヒ マ タ モ カ リ ノ ユ メ
ぶ ま あ ら し と も し き え て や み ふ か し



ア タ ナ ス テ キ ラ バ ウ チ タ ヒ ラ グ タ ミ ク
あ た な す ぞ く を ば と く う ち し づ め た か



ニ ノ ホ マ レ ア グ ナ モ ノ ト フ ル ヒ タ チ シ コ ノ イ ク サ
さ い さ を を に な ひ て く に の お や に と も に ま み え な ん

露 營 の 夢

一

夕空晴れて星ははるけく、 蟲の聲に露しとと。

つかれし身をば草の枕に、 今宵またもかりの夢。

あたなす敵をばうちたひらげて、

皇國みくにのほまれあげなんものと ふるひたちしこの戦いくさ

二

にはかにおこる干戈かんごのひびき、 すはや敵ととびたてば、

敵にはあらですさぶ夜嵐、 燈ともしきえて暗ふかし。

あたなす賊あつかをばとくうちしづめ、

たかきいさををになひて故國こくにの 親に友にまみえなん。

麻 上 俊 延

あせし薔薇

さびしく
mf

1. ナ ッ モ スーギー ユク ニーハー ノモー
2. あかき ゆーふーひも うーすーづけー

ニ ヒ ト リ サービー シク サーキー シバー
ば もろき はーなーびら ちーりーてゆー

ラ ヤーレ シハーニモ ウーレ ヒーヤー
く むーし のねーにも むーね はーいー

ドリアハレ サービー シク サーキー シバーラ
たみあはれちーりーゆく あーせーしばーら

あせし薔薇

夏も過ぎゆく 庭の面に、
ひとりさびしく さきし薔薇。
破れし葉にも、 愁ひ宿り、
あはれさびしく さきし薔薇。
赤き夕陽も 春づけば、
もろき花びら 散りてゆく。
虫の音にも 胸は痛み、
あはれ散りゆく あせし薔薇。

麻上俊延

旅 愁



1. ソ ソ リ ター ツー イ ハ ネ サ ギ リ マ ヨー フー タ ニ ャ
2. す な や ま に ま ろ び あ を き う み を み れ ば



コ ク ノ ム ス ミ ナ ハ ハ タ シ モ ナ ク ト ホ シ
か ぜ は ら ひ し ら ぼ ぼ ぞ ら に う つ る



ア ハ レ タ タ ヒ ト リ タ ビ ビ ト ト ナ リ タ
と ぼ く あ ら い そ に な む さ わ ぐ き け ば



ミ モ シ ラ ャ ク ニ フ ル サ ト ラ オー モ フ
い ひ し れ ぬ 思 ひ わ が 胸 に あ ふ る

旅

愁

麻

上

俊

延

一
 そそりたつ岩根、 さぎり迷ふ谷間
 苔のむす路は、 はてしもなく遠し。
 あはれただひとり、 旅人となりて、
 見もしらぬ國に、 故郷をおもふ。
 二
 砂山にまろび、 青き海を見れば、
 風はらむ白帆、 おほぞらにうつる
 遠くあらいそに、 波さわぐ聞けば、
 いひしれぬ思ひ、 わが胸にあふる。

春 興

爽快に



1. タニマノコホリモトケユクアシタ
2. かをりもゆかしくしらうめさきて



カスミノノベニテルヒノヒカリウララ
おぼろのみそらにはつきゆめのごとし



ココチヨヤソヨカゼハナノカタオクリ
うるはしきふえのねとほくよりひびき



ウグヒスノハツネモイトタヘニキコユ
かたりあふまどべにきうつきぬよひや

春 興

谷間の氷もとけゆくあした、
霞の野邊に照る日の光うらゝ。

こゝちよやそよ風 花の香をおくり、
鶯のはつねもいと妙にきこゆ。

二

かをりもゆかしく 白梅さきて
朧のみそらには 月ゆめのごとし。

うるはしき笛の音 とほくよりひびき、
語りあふ窓邊に 興つきぬよひや。

麻上俊延

樂典

三連符と切分音

楽曲中の或一部に、四分音符三個を二分音符一個の長さに、八分音符三個を四分音符一個の長さに歌はせることがある。此の場合には三個の音符に弧線を附し、3の數字を附記して他の音符と區別する。これを三連符と稱へる。



一小節内に於て、又は或小節から他の小節に亘つて、弱部に起つた一つの音符が、次の強部に於ける同度の音符と結合するときは、強部の位置が變化して前の弱部の音符に移る。これを切分音と

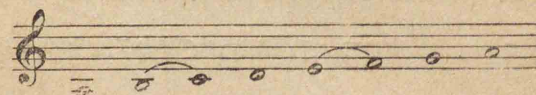
稱へる。これ等二個の音符を結合するにはその音符に弧線を附する。これを連合(タイ)となへる。



(イ)と(ロ)とは多少書法を異にしてをるが兩方とも>の附された音符が切分音で、強部である。一小節内に於ける切分音は普通(ロ)の如くこれを一つの音符にまとめて記すが、二小節にまたがる場合には必ず連合線を附して書かねばならぬ。

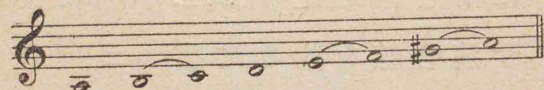
短音階

ハ長調中のイ音を基礎として、次のイ音に至る本位八音を以て音階を作つて見ると次のやうな音階が出来る。



此の音階を形成する各音は悉くハ長調に含ま

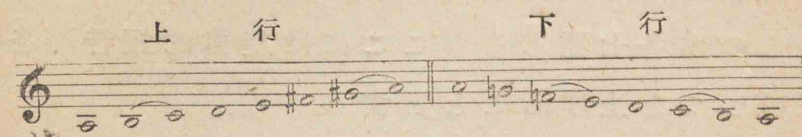
れてをるが、半音の位置に於てハ長調と異なつてをる。即ち此の音階に於ては第二音と第三音、第五音と第六音との間に半音がある。かくの如き形式の音階を自然的短音階と稱へる。そしてこの音階はイ音を主音とするから、これをイ短調と稱へる。此の音階は第七音と第八音との間が全音である。これは上行の際に耳に満足なる感じを與へないから第七音を半音上げて第八音との間を半音とし、これによつて安定した音階の感じを與へる。これを和聲的短音階と稱へる。



ところが此の音階は第六音と第七音との間に一音半(増二度)の距離を生じ、歌ふのに困難である。そこで第六音を半音上げて第七音との間を全音とする。其の結果第五音と第六音との間も全音となる。これによつて初めて歌ひよい音階となる。これを旋律的短音階と稱へる。

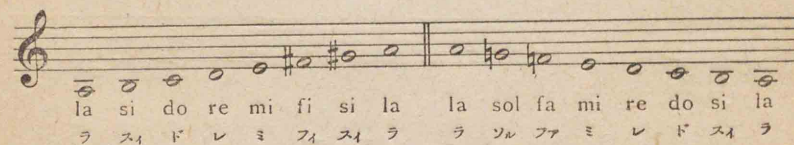
然るにこの音階は上行に際して第六音、第七音

を上げる必要があつたが、下行の際には其の必要が無くなるので、この兩音は本位音に復歸する。即ち下行の際には自然的短音階に歸るのである。



以上の三つの短音階の中、実際に使用せられるものは和聲的、旋律的の二短音階である。

短音階の階名は次の如くである。



すべて旋律的、和聲的短音階を構成するために用ひられた變化記號は臨時に必要に應じて記し、調記號として樂曲の首部に記することはしない。

短音階の調記號は自己の調の一音半(短三度)上にある長音階の調記號を以て自己の調記號とする。たとへばホ短調の調記號はト長調の調記號と同じく一嬰を有するが如きである。



短音階はイ短調以外に嬰変記號を調記號とするものが各七種あるが、ここには旋律的短音階各三種づつを上げることとする。

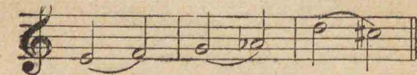


音 程

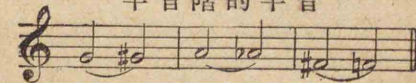
或二音間の距離を音程と稱へる。音程の最も簡単なものは半音程、全音程の二種で、他はその二音間に含まれてをる半音、全音の多少によつて種々なる音程に區別する。

半音には全音階的、半音階的の二種がある。全音階的半音といふのは二度にわたつて成立する半音を云ひ、半音階的半音といふのは同度にある二音の一つが變化記號によつて上下せられて成立する半音をいふのである。

全音階的半音

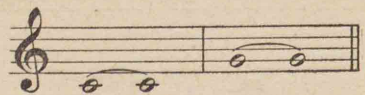


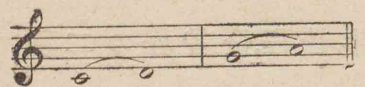
半音階的半音

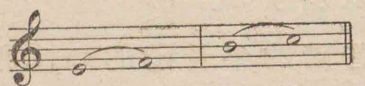


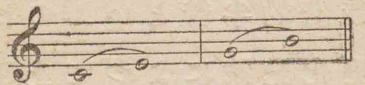
長音階中の或二音間に成立する音程は凡てこ


れを全音階的音程といひ、其数が十四ある。


完全一度  同音, 同度

長二度  一全音

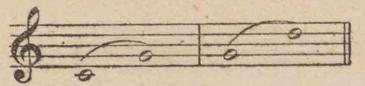
短二度  一半音

長三度  二全音

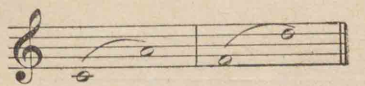
短三度  一全音と一半音

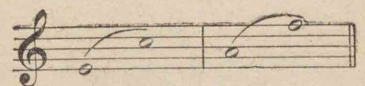
完全四度  二全音と一半音

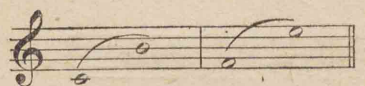
増四度  三全音

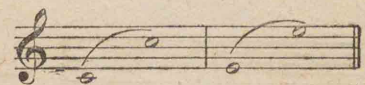
完全五度  三全音と一半音

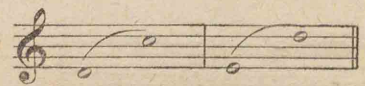
減五度  二全音と二半音

長六度  四全音と一半音


短六度  三全音と二半音

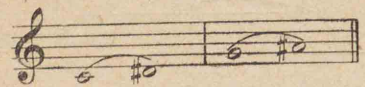
長七度  五全音と一半音

短七度  四全音と二半音

完全八度  五全音と二半音

以上の諸音程中の音程を、變化記號により一半音を増減せられたる諸音程にして長短兩音階中に現はれざるものはこれを半音階的音程といふ

増一度 

増二度 

減三度 

減四度 

増五度 

増六度 

減七度 

減八度 

雜記號

音符又は休符の上に \frown の如き記號の附された時は、其の音符又は休符の有する時間よりも長く延ばすことを現はす。これを停留記號と稱へる。その延長時間は曲の性質、又は奏唱する人の趣味によることが多いが、約二三倍位のばすのが普通である。



樂曲中の或一部分の音を特別に他の音から分離して短く鮮明に奏すべきを示した記號を頓音記號(スタッカート)と稱へる。これには圓點と垂點の二種がある。

記法 

奏法

(イ)の如き圓點の場合には、附された音符の約二分の一、(ロ)の場合には出来るだけ短く奏唱する。

高さの異なる二つ或は二つ以上の音符に弧線を附した場合にはこれを連結(スラー)と云ひ、此の弧線の附された音の一群を連続して滑かに奏すべきことを示し、同名同度の音符につけられた場合には、これを連合(タイ)と稱し、一つの音符に書かれたやうに奏する。

連結(スラー)



連合(タイ)



略記號

楽曲の中に同一曲譜のある時は記譜上の便を計り、特に其の場處に繰返しの記號を附して再記するの勞をはぶくことがある。これを略記法と

稱へる。

(イ)曲の初めより終りまで全部を繰返すもの



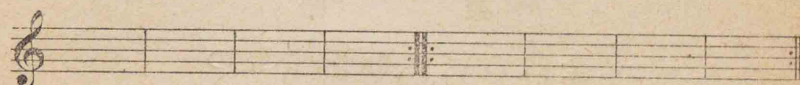
(ロ)曲の前半部を繰返して後半部に及ぶもの。



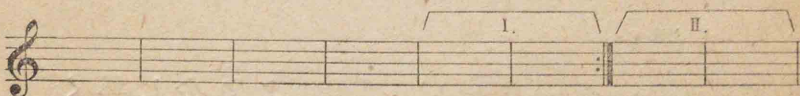
(ハ)曲の後半部を繰返して終るもの。



(ニ)曲の前半部と後半部とを各繰返すもの。



(ホ)曲の初めから I の終りに進んで最初に返り、二度目には I の部分を省いて II に至る。

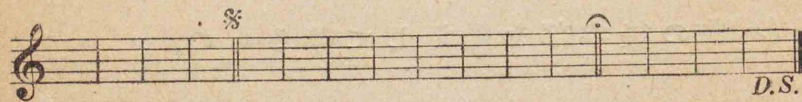


(へ)曲の初めから終りに至り、再び初めに返り、
Fine と記した所で終るもの。



D.C. は Da Capo (ダ、カーポ)の略で「初めから」の意、
Fine (ファイネ)は「終り」といふ意である。

(ト)曲の初めから終りに至り、※の記號のあると
ころに返り、停留記號⌒のあるところで終る。



D. S. は Dal segno (ダル、セニョ)の略で「記號から」の意
である。

楽 語

全曲の速度を示すもの

Grave (グラヴェ) 非常にゆるやかに莊重に

Adagio (アダージョ) ゆつくりのどかに

Largo (ラルゴ) ゆつくりと莊重に。(Adagio より
も遅い)

Larghetto (ラルゲット) Largo より少し早く

Lento (レント) 極めてゆつくりと

Andante (アンダンテ) ゆるやかに。(竝歩の早
さ)

Moderato (モデラート) 中庸の早さで

Allegro (アルレグロ) 速かに

Allegretto (アルレグレット) Allegro ほど早くなく

Presto (プレスト) 急速に

樂曲の進行中、一時的に速度の變更
を示すもの

Accelerando 又は accel. (アツチエレランド) 段々
に早く


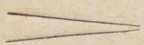
Ad libitum 又は ad lib. (アド、リビトゥム) 隨意に

A tempo (ア、テンポ) もとの速度にかへつて

Rallentando 又は rall. (ラレンタンド) 次第に靜に
おそく

Ritardando 又は rit. (リタルダンド) 次第にゆるや
かに

強弱に關するもの

Piano 又は p.(ピアノ) 弱く
Mezzo piano 又は mp.(メッツォ,ピアノ) 中等に弱く
Pianissimo 又は pp.(ピアニッシモ) 最も弱く
Forte 又は f.(フォルテ) 強く
Mezzo forte 又は mf.(メッツォ,フォルテ) 中等に強く
Fortissimo 又は ff.(フォルティッシモ) 最も強く
Crescendo 又は cresc.(クレシェンド) 或は  次第に強く
Decrescendo 又は decresc.(デクレシェンド) 或は  次第に弱く
Diminuendo 又は dim.(デイミヌエンド) 次第に弱く
Dolce (ドルチェ) 柔かく優美に
Sforzando 又は sf. > ^ (スフォルツァンド) 特に
其の音を強く

曲想に関するもの

Agitato (アジタート) 激動して
Animato (アニマート) 活潑に
Assai (アッサイ) 大に、十分に
(例 Allegro assai 十分早く)

Brillante (ブリランテ) 華麗に
Cantabile (カンタービレ) 歌ふやうに
Con (コン) …… を以て
Con brio (コン,ブリオ) 元氣を以て
Con espressione (コンエスプレッスィオーネ) 感情
情を込めて
Con fuoco (コン,フォーコ) 燃ゆる思を以て
Con moto (コン,モト) 活潑に
Con spirito (コン,スピリート) 潑刺と
Dolente (ドレンテ) 悲しげに
Espressivo (エスプレッスィーヴォ) 十分に感情
を以て
Grazioso (グラツィオーソ) 優美に
Legato (レガート) なめらかに
Leggiero (レツジエーロ) 軽く
Ma (マ) されど
(例 Allegro ma non troppo 速かに、されど過度でな
く)
Maestoso (マエストーソ) 威容を以て
Meno (メノ) より少く

Mezzo (メツツオ) 中等の
 Mosso (モツソ) 活潑に
 Molto (モルト) 大に非常に
 Non (ノン) でなしに
 Più (ピウ) もつと
 Poco (ポコ) 少し
 Poco a poco (ポコ, ア, ポコ) 次第に、少しづつ
 Quasi (クアズイ) 殆んど
 Scherzando (スケルツァンド) 輕快に
 Troppo (トロツポ) 過度に
 Sempre (センプレ) 何時も、つねに
 Senza (センツァ) 無しに
 Smorzando (ズモルツァンド) 消えるやうに
 Sostenuto (ソステヌート) 十分に各音の長さを
 保つて
 Tenuto 又は ten. (テヌート) 其の音符の長さを
 十分に保つて
 Vivace (ヴィヴァーチェ) 急速に
 Vivo (ヴィヴォ) 急速に

四度音程 (つゞき)

17

18

19

五 度 音 程

完 全 完 全 完 全 完 全 完 全 完 全 减

Exercise 20: A single staff in C major, 4/4 time, consisting of a sequence of perfect fifth intervals. The notes are: C4, G4, C5, G5, C6, G6, C7, G7, C8, G8, C9, G9, C10, G10, C11, G11, C12, G12. The exercise concludes with a diminished fifth interval (C12, F#12).

Exercise 21: A single staff in 3/4 time, consisting of a sequence of perfect fifth intervals. The notes are: C4, G4, C5, G5, C6, G6, C7, G7, C8, G8, C9, G9, C10, G10, C11, G11, C12, G12. The exercise concludes with a diminished fifth interval (C12, F#12).

Exercise 22: A single staff in C major, 4/4 time, consisting of a sequence of perfect fifth intervals. The notes are: C4, G4, C5, G5, C6, G6, C7, G7, C8, G8, C9, G9, C10, G10, C11, G11, C12, G12. The exercise concludes with a diminished fifth interval (C12, F#12).

Exercise 23: A single staff in C major, 4/4 time, consisting of a sequence of perfect fifth intervals. The notes are: C4, G4, C5, G5, C6, G6, C7, G7, C8, G8, C9, G9, C10, G10, C11, G11, C12, G12. The exercise concludes with a diminished fifth interval (C12, F#12).

Exercise 24: A single staff in C major, 4/4 time, consisting of a sequence of perfect fifth intervals. The notes are: C4, G4, C5, G5, C6, G6, C7, G7, C8, G8, C9, G9, C10, G10, C11, G11, C12, G12. The exercise concludes with a diminished fifth interval (C12, F#12).

六度音程

長 長 長 長 短 短

25

26

27

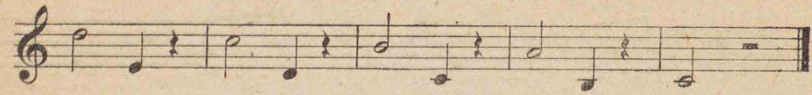
28

七度音程

長 短 短 長 短 短 短

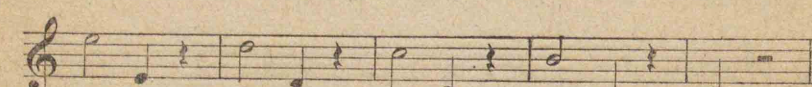
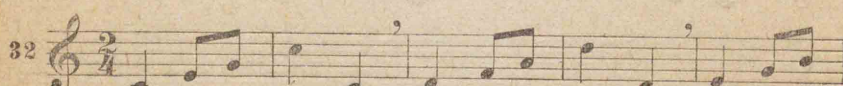
29

30



八度音程

完全 完全 完全 完全 完全 完全 完全 完全



昭和十七年四月十日印刷
昭和十七年四月十四日發行

實業音樂教本 貳	著作權 所有	定價 金三拾九錢
----------	-----------	-------------

著者 小松耕輔

發行者 東京市麴町區飯田町二丁目二十番地
中等學校教科書株式會社
代表者 山本慶治

印刷者 東京市神田區小川町二丁目十二番地
株式會社 秀英社
(東東4123) 代表者 西川喜右衛門

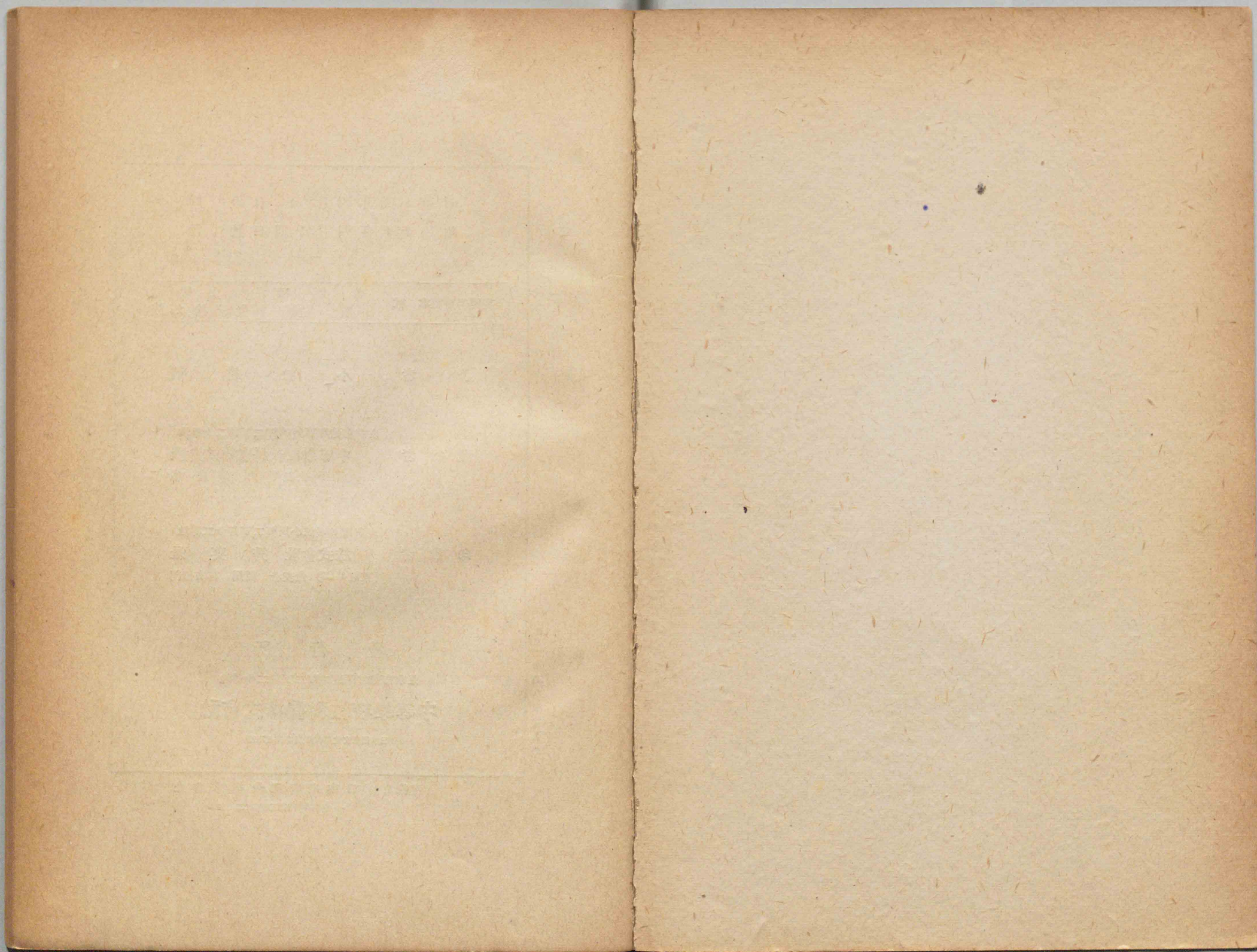
發行所

東京市麴町區飯田町二丁目二十番地
中等學校教科書株式會社

日本出版文化協會會員番號117522

配給元 日本出版配給株式會社
東京市神田區淡路町二丁目九

(略名) 目黒小松實音樂



広島大学図書

0130449433

